成人式協力員募集！！

飯山市公民館では、平成18年度飯山市成人式(8月15日開催予定)に先立ち、本年度成人式該当者(S60.4.2～S61.4.1生)の中より協力員を募集いたします。詳しくは飯山市公民館(TEL 62-3342)までお問い合せ下さい。

マイオピニオン ★★ 意見・私見

初期古墳の年代と古代史ロマン

日本考古学協会会員 秋津地区大久保区長 松澤芳宏

昭和54年頃、私は飯山・中野地域で前方後方墳や前方後円墳を幾つも発表し、その年代の上限を4世紀前半ごろにおいた。当時この地方の古墳の年代を5世紀頃からとするのが常識であったので、反発があった。

しかし近年、年輪測定や銅鏡の製作年代の研究が進み、当時の年代推定が、肯定されるどころか、さらに古くなる可能性が出た。私は、古墳時代を全長約80mを越す複数古墳の出現を契機に位置づけ、それ以前を弥生時代と考えている。今のところ古墳時代は3世紀前半～中頃が始まりである。

前方後方墳の可能性が高い飯山市法伝寺二号古墳の年代をみると、北陸の年輪測定を参考にして、高杯の土器破片から3世紀前ごろの年代が考えられる。土器の数が少ないので、慎重に考えても、この古墳は4世紀初めごろまでと考えられる。奈良県纒向（まきむく）石塚古墳・ホケノ山古墳と同年代の可能性もあろう。前方部の形態はこれらの古墳によく似ている。

一般に、近畿地方に古墳が出現し、それ以前は墳丘墓であるとされているが、間違いである。弥生古墳（以前の墳丘墓）から古墳へは墳丘のあることで、流れはスムーズであり、巨大前方後円墳の出現は古墳の発生ではなく、権力の大きさである。

飯山市に日本最古の古墳があっても驚くことはない。それ以前に弥生古墳が既にこの地方に存在しているのである。ただ、列島統一の動乱時代の人の動きが、畿内や地方の古墳に同じような形態をもたらしただけのことである。

3世紀は卑弥呼が活躍した時代であり、当時邪馬台（やまと）国は狗奴国と対立していた。狗奴国は群馬県から長野県に及ぶ地域と私は研究課題にしているが、勘介山・法伝寺二号・有尾一号墳は前方後方墳として、その古代ロマンを語っている。

勘介山古墳(南方より望む)　昭和57年筆者撮影

松澤芳宏さんは、現在大久保区長として毎日忙しい日々を過ごしている傍ら、地域の文化財などの保存や研究を、時には現場に行って説明をしている人です。

秋津地区広報部員

飯山雪国大学教養セミナー

長野県立歴史館 飯山公開講座

日時　7月1日（土）
午後1時30分～
場所　飯山市公民館 講堂
（入場無料）

演題一
「飯山城と城下町の移り変わり」
講師　飯山市文化財保護審議委員 長野日本大学中学・高等学校 校長　長瀬哲先生

演題二
「鮭と千曲川」～千曲川漁業史～
講師　長野県立歴史館 学芸部 総合情報チームリーダー　宮下健司先生

大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

夏休み！ 体験教室のお知らせ

飯山市公民館では、恒例の夏休み体験教室を開催いたします。
対象は、市内小学校・中学校の児童・生徒です。さまざまな体験や学校、学年を超えた仲間づくりを図る絶好の機会でもあります。奮ってのご参加をお待ちしております。
くわしくは、各学校を通して配布されるチラシをご覧ください。

教室名	定員	開催時期
楽しくつくる！ビーズアクセサリー	30	7月下旬～8月上旬
オリジナルスタンプづくり	20	
スターウォッチング	30	
おもしろロボット工作	30	
おどろき実験教室	30	
夏の冷た～い！おやつづくり	30	
入門！フットサル教室	30	
森で遊ぼう ～秘密基地づくりと昆虫さがし～	30	

2006飯山市企業人権教育講座

主催　飯山市総務部人権政策課　飯山市企業人権教育推進協議会

◎会　場　飯山市公民館
◎時　間　午後3時～4時30分

第1回　7月26日（水）
「人権ってなあに」
講師　長野教育事務所 生涯学習ﾁｰﾑ 支援主事　高橋信一郎

第2回　9月7日（木）
「仏教の教えと人権」
講師　妙専寺　住職　市川孝也

第3回　11月2日（木）
「いまどきの男と女」
講師　県弁護士会（人権担当）弁護士　中嶌美香

2006飯山市人権同和教育講座

主催　飯山市総務部人権政策課

◎会　場　飯山市公民館
◎時　間　午後3時～4時30分

第1回　8月31日（木）
「区の編成変え」
講師　部落解放同盟 長野県連合会副執行委員長　星沢重幸

第2回　9月21日（木）
「飯山NPO活動と私」
講師　いいやまNPOセンター 事務局　井田玲子

第3回　10月5日（木）
「法律と私たちの人権」
講師　長野県護憲連合事務局長長野市議会議員　布目裕貴雄

マイオピニオン ★★ 意見・私見

『水と緑と雪の郷ふじさわ』へようこそ

岡山地区専門部員　月岡裕

今年は6月25日（日）です。私の住む藤沢地区では、毎年6月に峠の竹の子を主に、山菜を販売する「藤沢山菜まつり」を行っています。

今年は残雪もあり、例年より1週間遅らせて、6月25日午前6時より開催します。

5月に入ると役割分担を決め、それぞれの係別に準備活動が行われ、前日には峠へ竹の子取りに行きます。竹の子取りに行けないお年寄りの方は、取ってきた竹の子の皮むきや、荷作りをします。当日も、各店舗・駐車場など、区民総出で取り組みます。

直径1メートルもある大きな釜で作った竹の子汁は無料です。また、好評の焼きおむすびや・笹もち・笹ずし、わけしょ組「一日会」が作った、ぶつもちなど、その場で食べられる物も用意していますので、ぜひお越し下さい。

ところで、今回で19回もまつりを行っていますが、藤沢ってどこだか知っていますか？最近では、新クリーンセンター建設地になり、関心のある方は知った方も増えたと思いますが、JRの駅も無い、ちっちゃな村です。

今は建設がストップしていますが、条件が整い、「水と緑と雪の郷ふじさわ」の地に、建設が再開できたならば、たとえ19年稼働に間に合わなくても、公害や危険性が無い、完璧な施設を造ってほしいと思います。

人権学習シリーズ

便利な社会の総和

飯山市総務部長　足立正則

田んぼに水が入り、早苗の季節となりました。こうした田圃の風景を見ると思い出すことがあります。私たちが小学生の頃は田植え休みがあり、みんな子どもながらに家や親戚の仕事を手伝いました。田植え作業は、家族はもとより親戚縁者、隣近所がお互いに助け合わなければ乗り切れない一大事業だったのです。しかし、現在では機械化が進み、人の共同作業から機械が行う作業に変わりました。便利で楽になった分、子どもたちを交えた一大共同作戦も無くなりました。

生活の面でも、ずいぶん便利になり、他人の助けをあまり借りなくても日常生活を過ごして行くことができるようになりました。しかし、便利さの一方で、人と人との関わり合いの頻度は次第に少なくなってしまった感がします。田植え作業に象徴されるように、家族や周囲の人たちの助けを借りなければ色々なことができなかった時代から、周りの人たちの手を煩わせなく、自分が望むことが実現できる個の生活スタイルの時代が進んでいます。

こうした自己完結型の便利な社会に小さい頃から馴染んでしまうと他人との関わり合いは、何となく煩わしいものに感じてしまうのではないでしょうか。家族も核家族の方がこじんまりして楽ですし、さらには一人の方が気楽で良い…。未婚の若い人達が増えている理由の一つには、こうした時代背景があるのかも知れません。

社会生活をしてゆく上で、他者との関わりなくして生きていくことはできない訳ですが、他の人への思いやりとか人権という意識の原点は、教科書だけで学ぶことは難しく、小さい頃からの人と人との様々な関わり合いの中で生まれ育つのではないのかなあと思います。個人個人の満足化社会の総和は、社会全体の満足度や幸福感につながっていくのか、利便社会が進行する中、時々立ち止まって考えてみる必要がありそうです。